

平成18年度決算審査特別委員会総括質疑概要

平成18年度の決算について審査特別委員会が開かれ、以下の概要にて質疑を行い、答弁がありました。

1. 行財政改革

■職員数並びに年齢について

ここ10年で1010人(27・4%)の人員削減を行ったことを評価したい。新たな施策には新規採用が必要だが、経験者の中途採用を打ち出すべきでは。

■総務部長

経験を持つ職員の採用は不可欠で、今年度より23区ではじめて中途採用を行う。

■行政評価システムについて

導入した行政評価システムについてどのように認識し、活用していくのか。

■政策経営部長

評価や成果指標の決定を各所管課が行っており、客観性の問題も含め、より良い方向でのシステムを構築していきたい。

■組織改正について

18年度に行った土木部の組織改正の効果と、今後の基本構想の中での取り組みは。

■土木部長

団塊世代の大量退職に対応するため、職員の能力開発が重要な課題。簡素で効率的な組織運営を目指す。

■政策経営部長

時代状況にあった組織改正の必要性、事業部制の導入も検討したい。

2. アウトソーシングについて

■基本方針に掲げる7つの留意事項について

業務のアウトソーシングの実施に当たって、どのようにチェックが果たされているか。また民間委託ありきという観点での議論が欠けているのではないか。

■企画課長

サービスの向上、コストの削減について、民間の知識・技術が活用できているか総合的にチェックを行って委託をしており、指定管理者については第三者評価を実施している。



3. 人材育成について

■山崎区長の認識について

区長という立場で16年ぶりに江東区に戻られ、職員はどう変化したと映っているか。

■山崎区長

職員はみなプロでやる気があると見ている。変化については難しい質問で答えようがない。

■職員の意識改革について

様々な改革の実施の中、職員はどう変わっているか。具体的な事例を示してほしい。

■総務部長

区民への対応や情報を各職場で共有できるシステムを作り、ある部署では自発的に組織の再構築の検討などを進めている。

■子ども生活部長

管理を移行した平野児童館の閉館時間を6時までとしたところ、保護者から評価され、直営についても同様の対応を行うこととした。

以上のやり取りから、

1. 早期の経験者採用を行うこと
2. 行政評価システムに幅広い評価の仕組みを取り入れること
3. 事業部制の導入を前向きに検討することを要望しました。

江東区議会 「民主クラブ」 平成20年度 予算要望

山崎区長に対し、民主クラブ9名で大綱6項目、全85項目に及ぶ平成20年度の予算要望を行いました。その実現に向けて、一致団結し頑張ります。

- ① 教育 — 魅力あふれる教育環境のまちづくりを実現
- ② 環境、福祉、健康 — 安心してらせるまちづくりを実現
- ③ 経済、文化 — 躍動感あふれるまちづくりを実現
- ④ 都市整備 — 安全に住み続けられるまちづくりを実現
- ⑤ 国際交流 — 友情あふれるまちづくりを実現
- ⑥ 情報化・行政改革 — 自立心を取り戻し、効率性に富んだまちづくりを実現

詳しくは福馬えみ子のホームページをご覧ください。<http://www.e-fukuma.jp/>